

地域施設の教材開発を通して、自ら社会に関わろうとする素地を育てる指導の工夫
—第6学年「人々の願いを実現する政治」—

【提案】

教科書に出ている施設は児童にとって身近ではない存在であり、興味が沸くのだろかと疑問を抱いた。そこで導入時に、身近な施設から学習を進めていくことで主体的な学習となり、自ら社会に関わろうとする素地が育てられるのではないかと考えた。実践では、児童の馴染みの近隣の複合施設である児童館・公民館に行き、取材をし、それを教材化する。また、児童の思考をインプットのみにせず、アウトプットを積極的に図る手立てとして思考ツールを用いて授業を展開し、自ら社会に関わる素地の育成を目指した。



【児童になじみのある公共施設の既有的知識を確認し、学習問題を設定している場面】

1 実践のポイント

(1) 児童の追究意欲を高める地域施設の活用

本実践では、政治に関心を持たせるためにはどうすればよいかを考え、教科書に出てくる施設ではなく児童になじみのある施設を取り扱うことで意欲を高めることができるのではないかと考えた。「人々の願いを実現する政治」において、児童の全員が知っている地域施設の竹間沢児童館について取り上げて、そこから三芳町の市政の仕組み、三芳町の選挙などを教材として授業を進めた。身近な地域を扱い、発展させることで自ら問いをもちやすくなり、問題解決に向けた積極的な学習につながると考えた。さらに、あと数年後に児童自らが選挙において投票を行うことを理解し、その大切さを感じさせ、自ら社会にかかわろうとする素地の育成を図っていきたいと考えた。

(2) 付箋と思考ツールの活用を通して、自ら進んで考える社会生活の理解と態度を育てる。

社会生活の理解と態度を育てるためには、自分の考えをもち、周りの友だちの考えと交流し、自分の考えを深めたり広げたりする必要がある。そのために、自分の考えを可視化できるように付箋を使用したり、思考ツールを活用したりして授業を行った。話し合い活動では、付箋に書いた考えの共通点を重ね合わせたり、相違点を分けたりした。付箋を活用することで児童一人一人が考えるきっかけを与えることができた。さらに、思考ツールでは、「Yチャート」を活用し、付箋で考えたことや班や様々な立場の人の考えなどの多様な考えを視覚的にわかりやすくし、話し合い活動をより活発に行うことができるのではないかと考えた。

2 実践の位置づけ

(1) 小学校学習指導要領との関連

内容(1) 我が国の政治の働きについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア(ア)日本国憲法は国家の理想、天皇の地位、国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本を定めていることや、現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを理解するとともに、立法、行政、司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを理解すること。

(イ) 国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解すること。

(ウ) 見学・調査したり各種の資料で調べたりして、まとめること。

イ(ア) 日本国憲法の基本的な考え方に着目して、我が国の民主政治を捉え、日本国憲法が国民生活に果たす役割や、国会、内閣、裁判所と国民との関わりを考え、表現すること。

(イ)政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え、表現すること。

本小単元は、小学校学習指導要領第6学年の内容(1)のア(イ)(ウ)及びイ(イ)との関連で設定されたものである。我が国の政治の働きについて学習する際に、地方公共団体や国の政治の働きが反映していることを調べる対象として、政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを考えることができるようにすることをねらいとしている。そこで、ねらいに迫る手立てとして地域教材の開発を行う。地域教材を開発し、授業で活用していくことで政治は、他人事ではなく、自分たちの生活に大きく関わっていることに気付いたり、より関心を持ちやすくなったりする。さらに、主権者教育の立場からも重要な学習であり、数年後には選挙権を得て政治に参加する権利があることも意識させ、学習を通して社会へ積極的に関わるきっかけ作りとしていく。また、導入時に身近な教材から授業を展開することで社会科に対して前向きに取り組む姿勢が生まれ、社会科好きな児童が増えるのではないかと考える。

(2) 実践のポイントの学習評価との関連

・評価のための授業にならないための、指導に生かす場面と評価を記録に残す場面の設定
本学習では、児童の自由な発想から学習が展開される場面や学習問題の結論を見出すために必要な知識を学習する場面が設定されている。

指導に生かす場面は、結論を見出すまでに必要な知識や技能を習得する学習である。本単元においては、税金の使われ方や必要性について学習する場面や選挙の重要性を知る場面である。学習問題の結論に結びつくように必要な知識について連鎖していくまとめや次時の予想、振り返りをしていく。評価に捉われることなく、結論に至るまでの過程を重要視して学習に取り組ませたい。

評価を記録に残す場面は、学習問題を設定する場面と結論を出す場面である。学習問題を設定する場面では、学級全体で学習問題の設定までの自由記述や現時点での知識を評価の対象とし、記録に残しておく。様々な学習を通して学んだことを学習問題の結論の場面で生かして記述できているかを評価する。評価の観点としては、学んだことや記録として残している最初の考えとの変化や新たな学習問題の設定、これからどのように社会とつながっていくかなどの記述を主な評価の観点とする。このように指導場面と評価場面を明確に分けて授業展開をすることで児童一人一人を見届ける指導が効果的にできると考える。

3 実践の内容

(1) 単元の目標と評価規準

国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること、政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることが分かるとともに、我が国の政治の働きと国民生活とのかかわりを考えようとする。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 国民生活には地方公共団体や国の政治が反映していることを理解している。 ② 政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解している。 ③ 地方公共団体について各種資料を活用して、必要な情報を集め、読み取っている。	① 地方公共団体の政治の働きについて学習問題や予想、自分の考えをもち表現している。 ② 地方公共団体が市民の願いを取り入れながら国と協力していること、政治は国民生活の安定と向上を図るために重要な働きをしていることについて考え、適切に表現している。	① 三芳町に住む自分たちの周りには様々な人がそれぞれの思いをもって活動していることを知り、その考えに共感し、よりよい生き方を考えようとしている。 ② 三芳町に住む自分たちが社会にかかわることとは何か考えようとしている。

(2) 指導計画と評価計画（6時間）

※網掛けは、評価したことを記録に残す場面

○の数字は時間を表す。

知：知識・技能

思：思考・判断・表現

〈 〉内は評価の方法を表す。

態：主体的に学習に取り組む態度

	学習活動・学習内容	評価の観点・内容・方法	資料
つかむ	① 竹間沢児童館について知っていることを出し合い、資料からさらに気付いたことをまとめる。そして、学習問題として、「竹間沢児童館が変わらずにずっと続いているのか。」について予想を考える。 ・竹間沢児童館について知っていることを出し合い、広げること。 ・疑問から学習問題を設定すること ・予想を立てること 学習問題 _____ なぜ、竹間沢児童館は約30年も変わらずに続いているのだろうか。	思① 地方公共団体の政治の働きについて学習問題を設定し、自分の考えをもち表現している。 〈ノート〉	・竹間沢児童館の写真 ・竹間沢児童館の館内ビデオ
	実践のポイント(1) 実践のポイント(2)		
調べる	竹間沢児童館はどのように建てられたのか。 ② 過去と現在の航空写真を比較し、違いについて調べ、人々の願いは、どのように実現されているのか調べ、まとめる。 ・竹間沢公民館周りの変化 ・選挙について知ること ・人々の願いが実現する過程 ・町議会議員の仕事内容 実践のポイント(1)	思② 地方公共団体が市民の願いを取り入れながら国と協力していることについて考え、適切に表現している。〈ノート〉 知① 国民生活には地方公共団体や国の政治が反映していることを理解している。〈ノート〉	・竹間沢公民館航空写真 (建設前と後) ・三芳町に関する資料

	<p>竹間沢児童館は建てるためにどのくらいの費用がかかったのか。</p> <p>③ 竹間沢児童館が建てられるまでを学習し税金の仕組みについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民の要望を受け、計画案や予算案を作成していること ・建設費用の内訳とその内容について ・借金して建設している理由 ・税金の仕組み <p style="text-align: center;">実践のポイント(1)</p>	<p>知③ 地方公共団体について各種資料を活用して、必要な情報を集め、読み取っている。〈ノート〉</p> <p>知② 政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解している国民生活には地方公共団体や国の政治が反映していることを理解している。〈ノート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町政の職員の動画 ・三芳町に関する資料
	<p>竹間沢児童館はどのように運営しているのか。</p> <p>④ 竹間沢児童館の運営について調べ、その目的は何かを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営費の内訳 ・子育ての学習会、季節ごとのイベント、父親向けのイベントが自分たちで企画したりアンケートをしたりして決定していること ・利用する人たちの思いや願いを反映して活動していること <p style="text-align: center;">実践のポイント(1)</p>	<p>知① 政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解している。〈ノート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館だより ・児童館館長のインタビュービデオ
<p>まとめる</p>	<p>竹間沢児童館に対する様々な人の思いを知り、結論を考えよう。</p> <p>⑤ 町政の職員の思いや児童館の職員の思い、様々な人の思いを知り、学習問題について調べたことを整理して、学習問題に対する結論を出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町政・児童館の職員の思い ・学習問題の結論を出すこと <p style="text-align: center;">実践のポイント(2)</p>	<p>態① 三芳町に住む自分たちの周りには様々な人がそれぞれの思いをもって活動していることを知り、その考えに共感し、よりよい生き方を考えようとしている。〈ノート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町政の職員児童館の職員、自分たちの写真
<p>学習問題の結論</p> <p>竹間沢児童館は、人びとの声を選挙で選ばれた町議会議員が届け、三芳町役場で話し合われ、建設することが決定した。建設費は、国からの補助や町の借金、町の税金からであり、運営費についても町から出ている。</p> <p>そして、町（地方公共団体）の政治は、人々の願いを取り入れながら進められており、町民（国民）の生活の安定と向上を図るために、重要な働きをしている。</p>			
<p>生かす</p>	<p>⑥ 北本市で新駅開発が住民投票によって白紙になったことから選挙や投票の大切さを知り、三芳町で計画されている藤久保地区の小学校、図書館、公民館の複合施設の建設について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北本市で新駅開発が住民投票によって白紙になったこと ・選挙や投票することの大切さを知ること 	<p>態② 三芳町に住む自分たちが社会にかかわることとは何か考えようとしている。〈ノート〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・北本市の新駅についての資料 ・藤久保地区の複合施設に関する資料

4 実践結果と考察

(1) 児童の追究意欲を高める地域施設の活用

「つかむ」では、教科書で取り上げている施設ではなく、児童の誰もが知っている地域教材を扱うことで関心を高め、主体的に学習するきっかけとなるようにした。

1/6 時間目の「つかむ」において行った実践の場面【具体的な3つの活動場面】



- ①授業開始に写真を提示した。
提示した瞬間に
「あっ、知っている。」
「児童館だ。」などの声が挙がった。
- ②現時点で知っている知識の確認
 - ・漫画がある。・塗り絵ができる。
 - ・小さい子の遊び場がある。
 - ・ミニ体育館で遊べる。
 - ・税金で建てられた。
 - ・三芳町が建てた。☆建設経緯や運用については、分か
っていなかった。

予想の発言

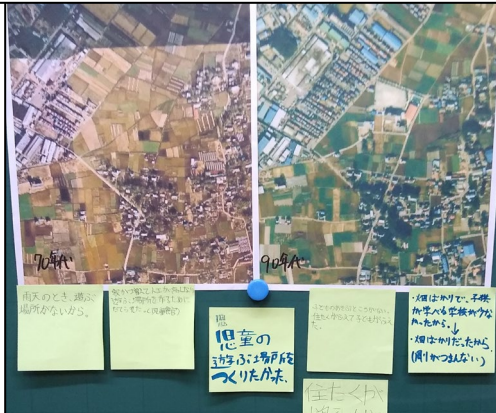
③次に、施設内部の写真を班ごとに提示し、誰が何のため、どんな人のために作ったのか、工夫している部分を考える場を設定した。

④班ごとに施設の工夫を記入し、意見ごとに分類して誰が何のために建設したのかについて迫り、学習問題を設定した。

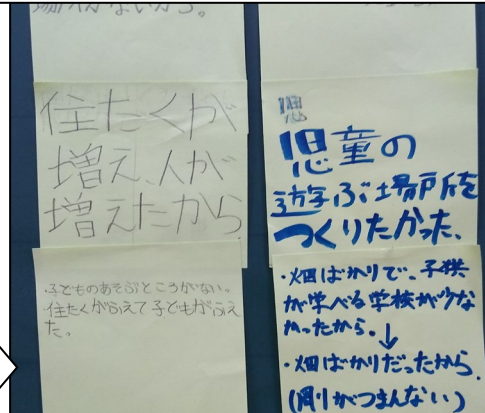
*地域素材を使うことで、教師の予想以上の発言が多く、普段発言しない児童も意欲的に短冊に記入している姿が、見られた。単元の導入で学習への意欲付けの重要性を改めて知った。

(2) 付箋と思考ツールの活用を通して、自ら進んで考える社会生活の理解と態度を育てる
自分の考えを可視化できるように付箋を使用したり、思考ツールを活用したりして授業
を行った。

2 / 6 時間目の「調べる」において行った実践の場面【具体的な活動場面】



付箋を各班に配布し、一人一人の考えのアウトプットする場を設定した。



学級全体で付箋を分類し、考えを共有化した。

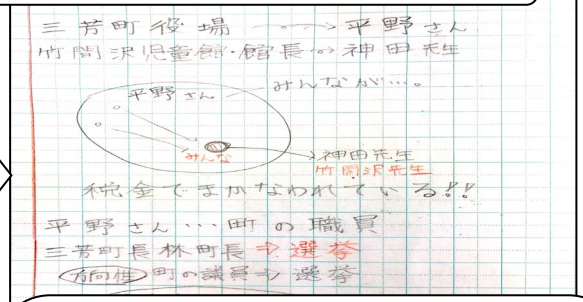
5 / 6 時間目の「まとめる」において行った実践の場面【具体的な活動場面】

思考ツール
Yチャートの活用



町役場（行政）児童館（現場）自分たち（町民）
それぞれの立場のやるべき事・思いをまとめ
「町のため」という共通点を見出す場面

* 思考ツールや付箋を活用することで主体性が現れ、
意欲的な学習を継続して行うことができた。



終末の児童のノートの一部

大きい○は全体を考えている行政、その中に現場で働く人や我々がいることを表している。公共施設は税金で賄われていることや限りある財源の中、工夫して人々のために仕事していることを理解した。そうしたことで思いを受けて自分たちの在り方について考え、まとめていた。

5 研究の成果と今後の課題

〈成果〉

- ・ 地元の施設を教材化することで児童の興味が高まり、意欲の高いまま学習が進んだ。
- ・ 思考ツールや付箋を積極的に使い、話し合いの場を多く設定することで社会科に対して意欲的に学ぶ児童が増えた。さらに、自主学習でも政治や選挙の仕組みを詳しく調べてきたり、家で選挙に行った事があるか聞いてみたりする姿が見られ、学んだことをさらに追究する児童が増えた。
- ・ 社会参観の観点でそれぞれの立場の思いを知り、選挙の重要性を認識することができた。

〈課題〉

- ・ 「つかむ」の学習場面では、施設内部の写真を提示したが、視点が多かったため時間がかかってしまったので、ねらいをより明確にし、焦点を絞っていく必要があった。
- ・ 使用した写真やインタビューしたビデオの編集など来年度以降もどの教師でも扱いやすくするための教材化、単元化をすることが必要である。